

令和7年度 学校評価アンケート調査 結果分析

【アンケートの概要について】

- 実施方法：回答方式を Microsoft Forms を用いた一斉回答とした。保護者については、夏の懇談時に紙による回答のどちらかで実施した。今年度、多言語によるアンケート質問を準備して実施した。
- 分析方法：「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」を合わせたものを「肯定」的な回答として「C：あまりあてはまらない」「D：まったくあてはまらない」を「否定」的な回答として分析した。

【評価の分析】

□ 追加質問項目について

① スクール・ミッション／スクール・ポリシーに関する質問（項目1）

昨年度までに策定された「スクール・ミッション」や「スクール・ポリシー」が、生徒・保護者にどの程度浸透しているかを把握する必要があると、学校の理念や方針が、日常の教育活動や生徒指導にどのように反映されているかを評価し、今後の広報・説明の改善に活かすために追加した。保護者の回答で8割が肯定的な結果が得られている一方で、生徒の「わからない」という回答も多く、満足度の維持・向上には情報の可視化と共有が不可欠である。

② 学校満足度に関する質問（項目2）

生徒・保護者が学校生活に対してどの程度満足しているかを定量的に把握することで、学校運営の方向性を確認する必要があると、「入学してよかった」「安心して通える」といった感情的・総合的な評価を把握し、教育方針の妥当性や改善点を明確にするために追加した。生徒の「2 本校に入学してよかったと思っている」：A+B85%、保護者の「2 お子様は、喜んで学校に行っている」：A+B88%、この結果から、学校生活に対する高い満足感と信頼感がうかがえる。

【生徒対象アンケート】

回答人数は昨年度と同様に回収することができた。概ね肯定的にとらえていることが見て取れる。「わからない」とする回答率において通常は高校生活の経験から、学年進行で減少する傾向があると考えられるが「わからない」の回答が10%を超える項目が、10項目にのぼった。（項目1、4、7、10、11、15、17、21、22、23）

□ 学校独自項目において

昨年度と比較して低下した：2項目、そのうち肯定群（A+B）で昨年比5%以上変化したのは、1項目であった。「22 地域と連携した活動に積極的に取り組んでいる。」：-6%

□ アンケート全体で肯定群（A+B）が9割近くに及び特に多い項目は、3項目であった。

「8 授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い。」：A+B89%

「12 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。」：A+B88%

「16 進路講演会等により、進路や将来について考える機会がある。」：A+B88%

□ 肯定群（A+B）が8割超の項目は、17項目であった。（項目2、3、4、5、6、8、9、10、12、13、14、16、17、18、19、20、23）

□ 過半数を超える生徒が強く肯定（A）している項目は、17項目にのぼった。（項目2、3、5、6、7、8、9、12、13、14、15、16、17、18、19、20、23）

□ 強い肯定群（A）が比較的低い項目として5割以下の項目は、6項目であった。（項目1、4、10、11、21、22）

□ 否定群（C+D）が2割超と比較的多い項目は、なかった。

□ 強い否定群（D）が5%以上の比較的多かった項目は、以下の3項目であった。

「7 体罰やハラスメントはない」：D 5%、「21 生徒会活動が活発である。」：D 5%

「22 地域と連携した活動に積極的に取り組んでいる。」：D 5%

□ 不明群（E）が2割超と比較的多い項目は、以下の1項目であった。

「1 スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」について分かりやすく説明を受けている。」：E 29%

【保護者対象アンケート】

Microsoft Forms と紙による回答のハイブリッド形式で、回答人数は例年と比べ大幅に増加した。今年度は、多言語の質問項目を準備したことで回答しやすい要因となったと考えられる。また、学校運営協議会委員にも回答を依頼することができた。アンケート結果は概ね肯定的であると見て取れる。

□ 肯定群（A+B）が9割超と特に多い項目は、10項目であった。（項目6、7、8、10、14、16、17、19、21、23）

□ ほとんどの項目で、肯定群（A+B）が8割超と多かった。

□ 強い肯定群（A）が比較的多い（7割以上）項目には、以下の6項目であった。

「6 学校を訪問したり、電話したときの教職員の対応（挨拶や話し方）が適切である。」：A 73%

「16 生活安全（防犯、熱中症等）、交通安全、災害安全に関する指導が適切に行われている。」：A 73%

「17 教育相談体制の充実など、生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりに努めている。」：A 70%

「18 進路説明会を実施するなど、生徒・保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。」：A 70%

「19 大学見学や企業見学等を実施し、生徒が進路について考える機会を提供している。」：A 70%

「23 学校は、「外国につながる生徒」の学習支援に力を入れている。」：A 71%

□ 否定群（C+D）が1割超の項目は、以下の1項目であった。

「5 学校開放や見学会など、保護者や地域の方が学校を参観する機会が提供されている。」：C+D 16%

□ 不明群（E）が2割超の項目は、なかった。最も多い項目で以下の17%であった。

「1 学校は、「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」の実現に努めている。」：E 17%

【まとめ】

今回のアンケートの分析結果により、全体として肯定的な評価が多く、生徒・保護者ともに、本校の学校生活について、学校運営や教育活動に対する信頼感が高いことがうかがえる。昨年度と比較した、生徒の質問21項目のうち6項目において5ポイントの上昇が見られ、逆に5ポイント以上下降した項目は3項目となった。保護者等に関しては同じく21項目中で5ポイント以上の上昇はなかった。5ポイント以上の下降は5項目となった。これらの結果から、全般的には、高止まりの傾向のなか生徒・保護者から学校に対する評価は全体的に高いことがわかる。一方で、一つひとつの質問項目に目を向けると昨年度比で、下がっているものも見られる。特に、保護者等の回答で「学校開放や見学会など、保護者や地域の方が学校を参観する機会が提供されている。」が17ポイント下げており、改善策を打たなければならない。また、生徒回答で「生徒会活動が活発である。」が12ポイント下げていることから校内での生徒会活動の見直しや工夫も必要と考えられる。学習指導におけるICTを活用した効果的な授業については、生徒の回答で「肯定的」な回答の割合が低かった。今後、ICTを活用した学びが実効性のあるものとなるよう具体的な改善策を早急に講じなければならない。加えて、家庭との連携、教職員の指導に関して保護者の「わからない」の回答が多いことから、保護者や地域に対して学校の取り組みの様子が分かるように情報提供をしたり学校の様子を知る機会を増したりすることも検討していかなければならない。保護者からの回答数が増加した一因に本校の特徴でもある多言語対応での依頼などの工夫が奏功した結果であり、今後も継続・発展させるべき取り組みだと考えられる。今年度のアンケート結果を真摯に受け止め、生徒が学校生活を満足に送り、自らの可能性を最大限に伸ばし、進路目標が実現にできるよう、保護者の方や地域の声にも耳を傾けながら改善と実践を繰り返していくことが求められる。